京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

明治四十四年 [illegible]
本紙定價 [illegible]
月曜日及び大祭日の翌日は休刊(日刊)
廣告料 [illegible]
發行兼編輯人 [illegible]
印刷人 [illegible]
發行所 京城西小門通 京城新報社
電話 [illegible]
仁川支局 仁川宮町三丁目 電話二二一番
東京支局 東京市京橋區南佐柄木町七番地

日韓併合 祝一週年

正々堂々王者師

故伊藤公

●冥府の伊藤公へ(二)

恐々縮々庵主人

◎公爵閣下閣下は言ふ迄もなく冥府に於て當年の先輩たる岩倉、大久保、西郷、木戸、吉田の諸卿に面謁し維新後四十三年間即ち卿下が最後にいたる迄の光輝ある明治の歴史を逐一報告し同時に朝鮮の狀態に就ても詳細陳述いたせることは言ふ迄もなき義と存候而して此等の諸卿は閣下が常に愛撫提撕せし朝鮮人の爲めに敢なくも一命を殞せるを聞き哀心憤激の情に堪へざると同時に一面に於て滿足の意を表し一に閣下に謝するところありたることゝ存候瞑すと雖も其の得意や蓋し想ふべきなり

◎夫れは却説四十二年閣下が朝鮮統監の職を辭し同時に曾禰子其の後を襲ひ閣下に代つて朝鮮統治の治局に當るや子は少しく閣下の方針と異なり産業の獎勵を標榜したることは閣下も御承知の事と存候子は即ち鐵道の敷設治水の改良港灣の修築道路の改修等に意を注がれ公私の席上に於て「朝鮮の開發は産業の振興にあり」と聲明しマヅ産業の發達に力を盡し而して後他の方面に及ばんとするもの〜如く候ひき然るに彌來幾干もなくして子は不幸にも二竪の犯すところとなり四十二年六月或る公會の席上に於て例の産業演説を試みたるを最後として直ちに病床の人となり其の後療養のため歸東藥餌に親み居りしが何をいふにも胃癌といふ不治の難病なるものから病体日に衰へ遂に藥石其の効なく四十三年五月落花地に委して杜鵑血に啼くの頃閣下の後を追ひ哀れ黄泉の客とは相成候

◎されば曾禰子に對して世間の一部のものは曠職無能の譏を還らし暗中累牛翁などの惡口を叩くものありしも蓋し之等の毒言は子を誣うるものにてツマリは病氣のため其の任を完うする能はざりしは勿論の事恐らくは子自身と雖も其の短命を遺憾に思ひ同時に掉尾の活動として平素の抱負を實行する能はざりしを痛恨事に想ひし事は推察に餘りあり候蓋し閣下と雖も曾禰子の病死に思ひ及べば必ず愍憐の念を催さるることゝ存候

◎「京城の春の眺めに乏しきもの」之れ曾禰子が閣下の統監時代京城の春色に憧がれて歌ひたる一種の俗謡に候顧みて當時を思へば曾禰子も綽々として閑日月ありし者なる哉而して子は世人も知る如く曾に俗謡を歌ふに趣味を有するのみならず其の他餘り感服の出來ぬ道樂に趣味を有し居りしも併し這は英雄豪傑を遣る末技なれば必ずしも嚴責の價値なくツマリは非禮ながら閣下の女道樂と毫も其の趣を異に不致候唯予の氣の毒に感ずる一事は子が生存中不言實行の標榜が其の過半に於て不言不行に終り冥府の諸先輩に對し謝すべき大なる土產の無之事が子に取つて忸怩の念を催ふしはせずやとの事に候されば此の點は大に閣下の庇護を俟たねばならずと存候(二十六日午後二時)

◎新刊紹介

◎書畫骨董雜誌 「日本畫家と旅行」「過渡期の日本美術」「書家と登山」等は斯道に心あるもの〜一讀すべき文字なり(東京本郷湯島三組町某社 一部十錢)

◎發明界 時潮特許發明實用新案登錄商標登錄意匠等の欄に分ち何れも圖解と說明を相俟つて讀むものをして容易に首肯せしむ(東京市四谷愛住町其社 一部三十五錢)

◎株世界 例に依つて記事却々賑々しく此の種の雜誌に似合はず飽物を掲ぐる所は蓋し讀者の眼を飽かしめざる爲めなるべし健全なる發達を望む(大阪東區今橋北治株式店 一部十五錢)

◎圖の華 丹青界の機關丈に繪畫の寫眞版却々に多し斯道の人之れを讀まば大に得る所あるべし(京都市下京區大黒町其社 一部十錢)

谷垂の靈廟

●京城週りの記

鉄翠居士

夏は暑きものと知りながら人の多くは暑さを喞たさるものなし人間程吾儘なるものあらず去りとし今夏は近年になき暑さなり安き氷を買ひ來て家族と共に備胃を冷やすは攝生を保つ所以にあらず一椀の冷麥に一時を凌ぎ得て机に向へば眠氣忽ち起り海岸ならは潮ゝ浴びて快哉を叫ぶべきならんも斯る斷願は不成就の事なり蒼蠅を打拂ひ盆栽に水を洒きて日の暮るゝを待ち軒先の一本に蠻勇を振ふ鼓に半晌の納涼を試みせ道中記事を錄して亦消夏の一に數ふ此の日下午六時家を出て右に折れ左に向ふ坂路曲折二三十分にして目的地に達す此處は之れ有名なる漢陽公園なり鬱蒼たる綠蔭滴るが如く颯々たる涼風は袂を拂つて來り爽快譬ふ可らず其一方には廣場あり廣袤約二丁方多くの市民を容るべし今春竣工す山腹を削り城壁を破りて坦々たる遊戯場たらしめたる其企業者の勞を思はしめたり踏躙に床机の用意あり肺を放ては京龍の全市眼下に迫り燦たる電氣瓦斯の燃燒は夜景を飾り鈍き電車を見てはコールフランン氏を聯想し颯々往き來ふ滊車を望んで日露の役從軍當時の事を偲ぶ

召使れ初

第百三十三回

黒法師

「御免下さりませ、れ父様御免下さりませ」と助藏は平伏し「私恐うござりました、私不調法を致しました」

「さらば其方何者に頼まれて、濱田殿れ屋敷へ推參した、異直に申せ」と助入は威丈高なり。

「御免下さりませ〜」

「詫を云ふても濟まぬ、有様をこれにて申すぢや」と助藏はやゝ詞を柔げ「いかに馬鹿兒でも、自分の心から思ひ付き、我等九死一生の大病など、察を僞る筈あるまい、何者に頼まれた異すぐにうれを申せ」

「私、什麽も存じませぬ、私ゃ一向に覺ゑでござりませぬ」

「まだ左様なことを申す、そなた一言の偶言は察を牢舍、濱田様奥殿を騒がせ、日頃大恩になるれ殿様までを連累する、普語同斷の仕方、返答の次第に由つては、我等に存じ寄もある、仕儀に由つては武士の一分、これ此の鈍膽一文字に切らねばならぬ、大事の瀬戸ぢや、親の一命に關はる大事の瀬戸ぢや、包み秘す處なく申せ」

助藏は又詞に詰りて、返答は無く強頭れたり。

「餘事とは違ひ、無言にて事は終まぬうなた武士の家に生れて、親に熱湯を呑ますこと致すまいの、一人の妹を究杠に殺すこと致すまいの、うれども…」とずつと寄て助藏の顔を瞬きもせず覗入り『自分一身の安きを貪る爲めには、骨肉を殺すも仔細無いと申すぢやの」

されど倘助藏は詞なかりき。

「斯様に申すを肯き入れず、親の心配を餘所に見るとなれば、も早や云はぬも早や一言も言はぬ、その代り」と手に持つ一刀の柄を打て「これの尖頭これの鋭きが物を云ふ」と、助入の眉の間に、恐しき殺氣顯るゝと、助藏は身を縮めて、白き眼に父の態度を窺み見たるが、額際より膏の如き冷汗をしとゝ流して。

「申し上げまする、異直に申し上げまする、命ばかりは御勘辨を願ひまする」

「諾し、さらば云へ」

「私、悪うござりました、私不圖した心得違ひ、然る人から頼まれたでござりまする」

「さもあらう、而て誰に頼まれた喃」

「然る人でござります、こればかりは御容赦を下さりませ」

「恕すことゝ爲らぬ」と助入は聲を尖らせ「察が宰舍の身に爲たも、濱田様れ奥衆、さまゞゞ御苦勞あらせられるも要る處はうなた一言の過失から事起る此期に臨んで頼まれた人の名を云はずとも、そなた武士が立つ譯では無い、察に恨みある者か、れ道様を敵とする者か、何れにしても此分では置かれぬ仔細を語れ、篤と仔細を白状爲」

助藏が他人に頼まれて、此の一大事を惹き起したりと聞きたる時、一應は柔和な顔を見合せたり、中にもた舗は悲しげに身を寄せて

「誰方に頼まれやつたかは知らぬ、根もない事偽り、家に心配の胸抱かせてそれが什麽の爲になる、自体この様の偽り云ふて、察を什麽とする心であつた、皆様た疑ひの晴れるやう、包み秘さず云ふて見やの」

此時又玄關に人の氣色したりき。物を含む如き男の聲、

「助藏殿御在宅か、ちよと御意得たい拙者でござる」

京城新報

祝併合一週年

昨年の八月二十九日は、韓國を我帝國に併合せられし日なり、吾人茲に其第一週年の當日に際し、慈然又欣然、一段の感慨と光榮とを以て、恭しく、皇國運の快事を記念するを禁じ能はざるものあり。

うも、韓國の問題は、吾人屢々言ひし如く、我神代よりの大懸案にして、何時の世にも絶ねざるの關係を保持したるは、之を史乘に照らして何人も知了せる所にして、斯くも二千年間の歷史は絶へず關係を語りながら、未だ韓國の處分を完全にしたるの實を示さざりしなり、然るに國運の發展は、我聖宗の武烈を事げて、日に月に盛んに、終に昨年併合の實を擧げ、此千載未決の半島は、此に八紘に普ねき、皇化の德澤に浴するに至り、大古よりの懸案も快刀亂麻を斷つの槪を以て終局の解決を見たり、今日は實に其第一週年紀念日として、我國運發展の現象は益々此に明らかにせられたるの感なき能はざるなり。

回顧すれば、一年前の今日併合の大事決行せられしも、之を爲すに至りし其源は明治三十七年二月日韓議定書の交換されし時に開かれ、次で同年八月の日韓協約となり、此協約に基き、我目賀田種太郎氏は招聘せられて、韓國財政顧問となり、我政府の推薦により米國人スチーブン氏韓國政府の外事顧問となり、此に日韓關係益々其歩を進め、明治三十八年十一月に至り日韓新協約は締結せらる同協約に因つて、日本政府は其代表者として統監を韓國に置く事、韓國の外國に對する關係及事務は東京外務省に由り監理指揮し、韓國政府は日本國政府の仲介に由らずして國際的性質を有する何等の條約若くは約束をなすことを得ざる事となり、伊藤博文公は第一世統監の大命を拜し、三十八年三月任に京城に臨みて以來、拮据勵精、韓國統治の爲に全精を傾注し普通敎育の奬勵、警務の擴張、計畫、宮中の廓淸斷行、地方制度の改善等を始めとして、目賀田顧問を財政監査長官たらしめ、紛糾錯雜せる韓國財政を自由に整理せしめし等治績は枚擧するに遑あらず、殊に王世子に對しては慈育至らざるなく、終に王世子をして日鮮同化の範を未來に垂れしめしが如く、伊公が併合の端緒を開き、且つ鮮民に併合の已むべからざる自覺を起さしめたる功勞は之と不朽に傳ふべし公薨して曾禰子爵第二世統監となり、能く伊公の遺策を繼承し、特に鮮土の富强を圖るには産業の振興を先にせざる可からずとして、親しく各地を巡視し、三南京元二鐵道及び國內道路の開通港灣の整理等を計畫して、併合準備の一歩を進め、尋で第三世統監寺內伯の剛健なる意志と、周到なる畫力によつて芽出度く總てを解決さる。嗚呼併合關係者の功の偉なるを懷ふと同時に、併合の因て來れる所を叙すも、記念の感慨として豈徒爾ならむや。

祝せよ、此紀念日、特に併合の爲に一新紀元を劃され、善政に浴しつゝある新附の國民諸子よ、諸子と吾人とは此紀念日に際し、太白を擧げて我 皇の御盛德を唱せざるべからず。

東京電報

▲西園寺侯參內

既報の如く西園寺侯は二十八日午前十一時召命に依り參內御座所に於て 天皇陛下に拜謁し親しく內閣組織の大命を拜し十一時四十分退出したり

▲新內閣の顏觸

西園寺內閣に入閣すべき各大臣の顏觸れ豫想左の如し

大藏大臣　原　敬
內務大臣　松田正久
陸軍大臣　石本新六
海軍大臣　齋藤　實
外務大臣　小村壽太郎

外に左の三氏も入閣すべしと

牧野伸顯
奥田義人
長谷場純孝

▲桂公西侯の會見

西園寺侯は原、松田の兩氏と協議を凝したる後更らに桂公を三田の私邸に訪ひ二時間に涉り新內閣組織に關し協議したり

▲寺內伯の進退

寺內伯は陸軍大臣の辭表と共に朝鮮總督の辭表を闕下に捧呈したるが留任如何は不明なり

▲新內閣組織期

西園寺侯新內閣組織の大命を拜したるに付本月三十日迄には新內閣の組織を見るべし

▲新任司令官發期

新任朝鮮駐劄軍司令官上田陸軍中將は來る三十一日午後三時四十分東京發赴任すべし

▲日佛通商條約

日本政府は本日外務省に於て去る十九日巴里に於て調印されたる日佛新通商航海條約の要領及佛領印度、支那に關する日佛間相互條約及暫定協約を公表したり

日本國政府及佛蘭西國政府は日本國又は佛蘭西に輸入せらるゝ佛國の商品又は日本國の商品に對して千九百十一年九月一日より附則稅表甲號又は乙號に記載する稅率を假りに適用する事を約定す

右適用は本月調印の兩國間と通商航海條約が千九百十二年一月一日前實施せられざる時は繼續するものとす

兩國政府は又前記期間通商工業航海及關稅に關する一切の事項に相互最惠國待遇を許容すべき事を約定す

▲上田中將拜謁

新任朝鮮駐劄軍司令官上田中將は卅一日出發赴任に就き御暇乞の爲め二十六日午前十時三十分參內御座所に於て 天皇陛下に拜謁仰付られ終つて別殿に於て茶菓を賜り退出したり

▲學校長選賞

各府縣實業學校長に對する選賞近く發表さるべし其人員は約四千人にて賞金は約四千圓を平等に配當せらる可しと云ふ

▲故大藏中將邸に勅使差遣

天皇陛下には二十七日故大藏陸軍中將邸に勅



寺內總督

使を差遣せられ祭粢料及幣帛料白絹二疋を下賜されたり

雜報

●未墾地貸下

未墾地貸下現況に付當局者の話に據れば去七月末に於る貸下總高は內地人五千四百六十一町歩朝鮮人六千二百七町歩にして不許可となりたる分は內地人四萬一千五十四町歩朝鮮人三万四千三百三十五町歩なるが其目的は田畑を主とし植樹、網干場等にて一件の貸下高は大概百町歩を限度とせるも場合に依りては二三百町歩の貸下を許可する事あり而して開墾の年限は一件十ケ年なるが個人にして最も大なるものは大木伯及古賀廉造兩氏の牙山郡に於ける干潟地七百四十四町歩余を以て最大のものとすと云ふ

●澤代議士談片

▲行政組織の複雜　統監當時の威嚴政策の余響なりや或は他に必要ありやは知らねども行政系統の複雜にして高等官吏の多數なるは異樣に感ずる所なり、若しも現行政組織を必要なりとせば其理由は大に調査するの必要あるべく高率簡易を主とす可き新開地に冗漫にして紊々しき現制度を維持するは研究に値ひす

▲新敎育令に就て　該敎育令に就ては聞く所勘けれども從來の私立學校及官敎師の學校に對する處置は如何なる考なりや又就學兒童は學齡兒童の十分の一にも達せざる位ならんに僅余の者に對する敎育は如何にせんとするか、思ふに是等は早速調査の行き屆く可き答なるに上は長官及び局長より下屬僚に至る迄幾十の階段あるを以て自然政務の澁滯を來すの結果なるべし

▲民團の將來　民團は長き間自治の歷史を有し幾多の財產をも有するを以て一朝にして之を廢止するは難かるべく是等の事に就ては意見なきに非れど此次渡來の際に讓る事とせん而して以上を槪指して余の最も感じたる所は

▲官民隔陽の一事なり即ち治者と被治者と相背反するは其罪假りに民間側にありとするも上意下達せざるの致す所なれば結局治者側の手落ちとせざる可からず況や一切の事官吏萬能主義を以て申請も陳情も更に顧を遇かざるの跡ありとせば官民乖離の責任は總督府の負はざる可からざる所なり、加ふるに軍人總督や憲兵警察は心理的に官民懸絕の因をなすものあらん此事たるや新領土統治上最も重大なる關係を有し其融和を保つに非れば治績を擧る事甚だ難し、猶最後に一言す可きは朝鮮は決して之を樺太や北海道臺灣又は外國の所謂殖民地と見る可からざるは官民共に覺知し居る事ならんが朝鮮は舊國にして決して土地を開發し人口を移殖するの國に非ず只斯土を改善し斯民の生活昂上を努む可きの國にして是に處するに普通の殖民政策を以てするは甚だ謬れりとす可し云々

●山縣氏言明

山縣政務總監は二十七日往訪の記者に對し予が入閣說は新聞紙上に散見せしも此は昔て西園寺內閣に遞信大臣たりしを以て亦今回も入閣するに非すかとの世間の想像にして予は東京の何人よりも交涉を受けし事なく全く世間の憶說なり寺內伯が大臣と共に兼任總督の辭表を提出されたるは事實なるべし然し結局兩者とも留任に非るかと察せらる然し之は何等依るべき根據あつての話に非ず全くホンの想像に過ぎず云々と語れりと（日本電通）

●京城水質調査方針

服部工學士が京畿道廳よりの依囑に依り京城水道水質調査の爲め來京したる事は既報の如くなるが右は氣溫及び日光其の他の方面より調査し以て之れが水質の如何を充分に確むべしといふ御調査完了の上は平壤に趣き夫れより仁川に向ふ豫定なりと云ふ

●大久保大將送別會

當地官民有志百餘名の大久保大將送別會は愈々二十八日午后七時より花月樓に於て盛宴を張れりと

●大久保大將發期

前朝鮮駐劄軍司令官大久保大將は來る九月五日昌德宮及德壽宮に伺候し李王殿下並に李太王殿下に御暇申上げ翌六日午前九時南大門驛發列車にて歸東の途に就く事に內定したり

●新司令官着期

新任駐劄軍司令官上田中將は來る三十一日午後四時四十分東京發赴任の途に就かるべしとは我が東電の報道したる處なるが今回司令官の着任期に就て其の筋に達したる公電によれば來る三日釜山着直ちに急行列車に搭乘し四日午前八時四十分南大門驛着 入京大觀亭に入る由なり

●兒玉伯の義俠

漢城府民會が負債の爲めに苦しみ居ることは世人の知れるところなるが總督府秘書官兒玉秀雄氏は右を甚く氣の毒に思はれ過日金七萬圓を同民會へ義俠的に寄附せられたるを以て同會員一同は愁眉を開きたりとの事なり

●行政事務講習會

既報の如く府郡書記地方行政事務講習會は二十八日午前九時より元度支部建築所跡に於て開會山縣政務總監臨席一場の簡單なる訓示並に宇佐美內務部長官の長時間に涉り地方行政に關する訓示あり同十一時散會したり

●獨總領事館招待

京城駐在獨逸總領事は二十七日正午同總領事館に目下來京中の獨逸東洋巡洋艦隊司令官及同各艦長總督府側より山縣政務總監明石警務總長を招待し盛んなる午餐會を開催したり

●獨逸艦隊の招宴

仁川入港碇泊中の獨逸東洋艦隊司令長官フォン、クロジック少將は廿九日午後〇時十五分同艦上に山縣政務總監及獨逸總領事其他京仁間にて十數名を招待し盛宴を張ると云ふ

●獨逸艦隊の拔錨

仁川入港中の獨逸東洋艦隊は二十九日午後五時拔錨旅順大連等を經て根據地たる膠州灣に向ふ筈

●京城圖書館開館

京城商業會議所書記長山口精氏の經營に係る京城文庫は今回京城圖書館と改稱し南大門通り度支部長官邸前に新築移轉したるが二十九日の併合紀念日より開館すべしと

紀念日祝賀彙報

▲大神宮臨時祭　二十九日併合紀念一週年紀念日に際し京城民團にて執行する南山大神宮臨時祭典は午前九時より行はれ民團の公職にある人々始め有志參列すべしと



第二統監故曾禰子

▲提灯行列　京城日報社主催の提灯行列は午後六時より光化門を出發す

▲花電車の運轉　日韓瓦斯會社にては祝意を表する爲花電車三臺を運轉す

▲神輿行列　本町一二丁目有志者は當日神輿行列を催ふす

▲花火大會　本社の奉納花火大會は南山倭城臺公園山口太兵衛氏邸後の山一帶に亘りて午後六時半より開會す

●京畿管內敎監會議

京畿道管內の各普通學校就職の內地人敎監會議は廿七日より京畿道廳內に於て開催したるが同日は檜垣長官及石田視學官の訓示あり廿八日は各種の諮問をなし廿九日閉會すべしと云ふ因みに敎監の出席者は五十五名なりと

●仁川各國居留地會

來る九月六日仁川各國居留地會臨時總會を山手町同事務所內に開催し議案は世昌洋行より提出せる万石町各國墓地下の世昌洋行の倉庫より鐵道を橫斷し仁川鐵道構內に至る軌道敷設の件及仁川基督敎靑年會より請願の各國居留地用地內の一部に會堂建設の爲め土地讓渡の件等なり

●京城水道供給高

京城水道昨今の供給高は一日平均百五十萬竏即三千七百五十石にして旱天打續く時は一日一萬一千石を要することありといふ冬季にいたれば二分の一彌即ち一千九百石にて事足るべしとの事なり



元財政顧問目賀田男

●山縣總監の下仁

山縣政務總監は二十九日午前十時南大門驛發列車にて中山武官を隨へ仁川に向け同地に碇泊中なる獨艦隊司令官の催しに係る艦上に於ける午餐會に列席同日午後四時同地發列車にて歸京の豫定なりと

●俵菊池兩氏開城行

俵土地調査局副總裁菊地農商工部長官事務取扱の兩氏は二十七日午前九時十分南大門發列車にて開城に赴き專賣局其他を視察して同日夜歸京せり

●澤代議士の歸期

澤代議士は本日午前視察の爲仁川に赴けるが氏の歸期は來る二十九日なりと云ふ

●明石總長の下仁

明石總長は二十九日午前十時發別假獨艦隊の午餐會へ出席の爲め下仁同四時歸京さるべし

●獨艦隊將校入京

仁川入港中の獨逸東洋艦隊將校十二名二十八日午前八時入京せり

●久水府尹の招宴

久水仁川府尹は來る三十一日午後一時京仁間駐在の各國領事及ジョンストン氏等十數名を官邸に招待すべしと云ふ

●「記事取消」

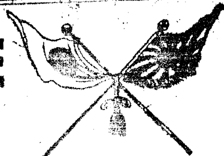
去る二十七日の本紙に掲載の土木局新設と題する記事は其筋の申込により全文を取消す

▲京城手形交換高▼

月日	金額	枚數
八月二十七日	一一五、六二五、圓九〇	四九五

▲治外法權▼

月日の經過のは早いもの、今日は丁度日韓併合の一週年、內地人も鮮人も共に太白を擧げて當日を祝さねばならぬ▲サテ併合最後の一幕を演じたのは寺內伯であつて、人も吾れも伯の功績を認め、同時に伯に向つて感謝せねばならぬ、併し物には始めあり、中頃あり已にして結果がある▲本日の社說にもある通り、最近の日韓關係は目賀田男が財政顧問となつて弊政の改善に着手したるに始まり故伊藤公の包攝主義實行、故曾禰子の産業樹立、而して寺內伯の併合條約調印を以て終りを告げたのである▲アー思へば目賀田男の乘込んで以來、八ケ年、舊李朝の希望に因り困難の解決を見る迄には隨分と困難の事もあつたので此點に就ては故伊藤公は勿論目賀田男曾禰子寺內伯等を同功の人と見做し此紀念の日に於ては日鮮人共に彼等に向かつて感謝せねばならぬ▲並に以上の四人の外に尙一人の功勞者がある、ソレは外でもない彼の外務顧問スチーブンスで、彼れは米人の身を以てして半島問題解決の爲に其一命を捧げた▲寺內伯が陸相と共に總督をも辭したとの東電が來た、併し記者の考を以てすれば、適當の相續者が見付かる迄は伯は留任することゝ思ふ▲兒玉秘書官が金七萬圓を義俠的に漢城府民會へ寄附したのは賞すべき事だ、で、記者は同人が鮮人側のみならず、今後內地人側にも同樣の寄附を爲さんことを望む▲去年の天長節に於ける提灯行列には藝妓の參加は一切相成らぬと嚴命を下した警務總監部は今度の提灯行列には藝妓隊の參加を許可したソウだ、テナテナ世の進步はエライもの萬事がコウありたいものだ。



日韓併合 祝一週年

講談

明石志賀之助（三）

兩人と呼び上げに連れて素裸體になり、〆込み十分になして土俵へ上る有様阿吽の仁王の如く、此の時明石の水汲み奴は、夢の市郎兵衛、仁王の水汲み奴は朝比奈藤兵衛、何方も黒五所紋の着附けに、鐵棒袴を穿いて居ります之れ當今俗にいふ呼出し奴、行司先觸れの役にして、本來力士介錯人の水汲奴と稱へます。相互ひに土俵に上り、日本譽れの一番勝負、怪我になりとも明石が負ければ、禁中を出るを俟つて浪花育ふの藤兵衛の、島の楔を留めて與れんと、夢の市郎兵衛西の溜りを睨んで居る、朝比奈藤兵衛、十が九仁王の勝負一仁太夫が負けたらば、血奴の市郎兵衛、首と胴との行き分れ、云はぬばかりに見詰めて居る、病氣ながら明石志賀之助、肢股を踏んで土俵の眞直中へ出で、双方勇氣凛々として互に仕切つてウムと入れたる阿吽の力エイヤムンヅと引組んだり、志賀之助は右を差して左の手で、仁王の前袋を引く、仁王仁太夫は左の腕で差込んだ明石の右の龍手を巻き、右の腕で明石の前袋を取り、ウンと腰を落して身構へる、明石志賀之助は身の丈八尺に勝れ、體量四十九貫五百匁、仁王は身の丈七尺八寸、體量四十五貫五百匁、組み合んだが明石は病氣ゆゑ、ジリ〳〵と仁王に押されて來るので力士の大事の土俵際へ右の踵が附く、夢の市郎兵衛は之れを見て、南無三大事、今若し妹婿の明石が負ければ、日下開山を仁王に取られる、命懸けの一番勝負、片眼を閉ぢて、市郎兵衛下總國埴生郡成田山新勝寺に安置し奉つる大日大聖不動明王を祈念し、我が命を只今召さるゝとも苦しからず、妹婿の明石に此の相撲勝たしめ給へと一心不亂に念じて居る、既に志賀之助、土俵を踏み切るばかりに見ゆたるが、此の時一聲唸るが否や、明石の身體がブル〳〵ツと戦へ、全身紅を塗つたる如くに相成り、元結プツツと切ねると黒髪バツと亂れ、さしも天下の力士たる仁王仁太輔を土俵の眞直中へ釣つて行き突然投子を差すが如く目よりも高く諸差しになし、一振り振つて投げ附けたれば、何條以て堪るべき、仁王仁太輔は肩の骨を突き拔き、首の骨を折たり勝負ありと吉田追風、團扇を東に上げる、此の時正面に垂れたる御簾は忽ち巻き上る、明石志賀之助は威風凛々として、身體に煙を吐くばかり、吉田追風間板を渡つて、剣階の下へ來る、三條島丸大納言藤條卿、白木の臺に載せたる日下開山の綱、横綱の廻し、之を御手に据へ、板倉伊賀守に渡す。勝理殿受取つて階を下り、吉田追風に渡す追風有難く押頂だき、土俵へ持ち參り深尾又三郎、同金七、手傳ひをして横綱の廻しを明石に締ける、吉田追風四本柱にあつた弓を取つて軍配の上に載せ、志賀之助は土俵の眞中に蹲踞で居る、其後軍配に載せし弓を持ち、大音聲に『今日大關結びの勝相撲、明石志賀之助、日下開山たるべき者なり』と東の土俵際まで押して來て、吉田は體を斜めに替へる志賀之助彼の弓を取つて七五三に振り込む、之れ日本力士弓取の嚆矢でございます。

花柳評判記（十二）

（前の續き）竹子さんは逸々、罰金と言ふ料理屋と鶴江戸家と言ふ待合の出た家を教ゑて呉れた。そうして家には母さん一人で、時々旦那がくる許りだと言ふ事を話した。路を間違へるといけないと言つて、暗い路次を二つ程曲つて櫻橋のわきまで連れて行つて果れて「左様なら」と言つて別れた。客と言ふものは心切なものだと思つて家へ歸へつたら十二時過ぎだつた、夫れから四五日經た晩、私は竹子さんの處へ行かなければ惡い様な氣がした。そこで夕飯を了つて母親に友人の處へ行くと言つて家を出た、空はよく晴れて明るい天の川が佃島の方へ流れて居た。教へられた罰金と言ふ家へ行つて口を掛けたら直ぐに來て。その晩の竹子さんは前の時とは見違へる様にとり済まして居た。けれども酒は不相變よく飲んだ。私が思ひ出して都々逸を唄つたら「そんな都々逸は古いわ、いゝのを教ゑてあげるから手帳を出しなさい」と言つて私の手帳へ三ッ斗り都々逸を書いて呉れた。あとで自分が唄つて見て「この節は洲崎の〳〵」孝さんの節だわ、乙でしよう。他へ行つたらこれを唄ふんですよ、そして人がきいたら情婦に教はつたと言ふのよ」と笑海に心切だ、私はまだ[illegible]した竹子さんは非常に憤慨した様な語氣で「それはみんな華魁の手際だわ、貴君が初心だと思ふから向ふでそうして見せるんだわ、吉原なんか止しなさい。傾城の戀は誠の戀ならずと言ふ事があるわ、ほんとうに惡い事は言はないから止しなさい、よくつて」けれどもそれ許りは竹子さんの言ふ事が違つてる様に思はれて仕方がなかつた。私は初から麥酒とサイダーをちやんぽんに飲んで、それまけに酒をぐい〳〵遣つたので、急に胸がむか〳〵して來た「勧進帳を教ゑてあげますから同伴に唄つて御覧なさい」と竹子さんが言ふのを烏渡待つて貰つて夢中で階下へ降りて厠へ飛び込んで嘔吐てしまつた。それから後の私はどうして此家を出たものやら、只車の上で八丁堀の町遊の灯が花簪車の様に廻るのを家へ歸つて無暗に嘔吐たのを知つて居る許りであつた。翌日藝者遊びは苦しいものだと私は泌々思つたそれから二個月程たつて萬安へ行つたので竹子に口を掛けたら、家を仕舞つて何處かへ行つて了つたと女中が話した。竹子の話はこれで終りだが、其時分の鶴江戸家の竹子が京城へ來て井門本店の政子と名乗つて居ようとはつい昨日まで知らなかつた、誠に長話で御退屈様々

●龍山の紀念祝賀（豫報）

て報道せる如く廿九日日韓併合紀念祝祭に付新龍山にては廿九日老松町に大神宮を安置し一同参拜の後餘興として同所に於て素人相撲の催あり又桃山遊廓にては生花の仕組に加ふるに夜分には藝妓の手踊の催あるとの豫定なれば定めて賑敷かるべし

●花火の話

別項記載の如く本社は二十九日南山倭城臺公園に於て奉納花火打揚をなす此の時此の際製造者即ち技術者其人の花火に對する話を披露することは決して無用の沙汰であるまいと思ふ

京城大和町二丁目　煙火師　富田虎吉君談

▲起源　煙火は漢土の烽火狼煙から出たもので我國語で飛火又は乃呂志と云ひ下つて近世火銃の渡來するに及んで硝薬を以て製造する様になり兵器運用の具に供したのが段々に進歩し嘉節瑞祥を祝し潤粧飾することに用うることになつて之れを花火と稱するに至つた

▲技術者　徳川時代は各藩ともに砲術方の擔任であつて容易には民間で打揚げることを許さなかつたものであつたが遂には山間僻地にまで流行することになつた

▲流名　花火の流名は砲術の流名を之れに擬らせ萩野流、良光流、と云ふ風に流派が深山ある東京の鍵屋玉家の如きは數代相継いたる營業者がある其他各地至る所に此の營業者はある當朝鮮に就ては三十八年十一月三日軍司令部の囑托を受けて私が製造したのを以て最初のものとします

▲名稱　打揚、龍勢、仕掛、立火、玉火、車火、網火其他に分ち打揚の種類は名稱を星物、袋物、烟物、割物、曲物等にて各地夫れ〳〵時長があつて

従來は夫れを秘密にして居たが當時は職工の出入から秘密の幕は開かれたので玉形は丸玉、長玉、隋圓玉、附玉等で大阪は曲物東京は星物及割物に長じて居る外國にも此の技はあるが我國の如く妙味のある者はないので海外に輸出せらるゝ事は御承知の通りであると云ふ

●うまい商法の失敗

仁川港内面平洞四十二統三戸崔明三（三〇）は從來仁川港に外國軍艦の入港せる際には濫川繪葉書店より繪葉書を借受け波止場に持行き外人に賣却し後にて殘餘を賣高等を同店に勘定し相當の利益を得つゝありしに數月前佛國艦隊入港の際例の如く八圓九十五錢の繪葉書を持去り其儘行衞不明となり居たるを昨朝波止場に於て同店主に現認せられ其筋の厄介となり勘定を濟し説諭の上放還さる

●奉納鍵屋式仕掛花火大會開催●

既報の如く本社は二十九日夜併合紀念皇太神宮臨時大祭奉納仕掛花火大會を南山倭城臺公園（總督府正門前面山口太兵衛氏宅裏手丘陵一帶の地）に於て開催す打揚、仕掛等の名稱左の如くに候

打揚の部

夕錦、雨後の月、眞菊、木附の菊、分炮、覆輪菊、エゾ菊、亂錦、覆輪四方引、柳間の月、菊の小割、千種野、分柳、大白星、大輪菊、水晶分炮、水晶里、柳間の分玉、十六の菊、滿天白其他

仕掛の部

三井物産會社、織居商店、三越呉服店、東光社、辻屋、東亞煙草會社、やま玉足袋店、ビール會社、京城新報、其の外に朝顏、火車等

右各會社商店苦心の意匠に成れるもの十數臺の競技に御座候開會は午後六時半號報、五段連發、黒烟菊、分砲、五連旗等の打揚を以て致し候當夜の壯觀蓋し想像の外に出づべく候

八月　京城新報社

●七人珠数縛き

香川縣人當時新町二十五番戸森和嘉一（三〇）同縣人當時櫻井町七十一番戸植松米吉（三四）大分縣人當時若草町四十三番戸甲斐定（三三）及内縁の妻局きく（二〇）島根縣人當時櫻井町四十九番戸佐々木せつ（三五）大分縣人當時若草町一丁目植木きそ（三九）同縣人當時櫻井町林きな（三九）の七名は二十七日午後七時頃より賭博を爲し南部署に檢擧され目下取調中

●寄附を強請して

京城南大門外御成町高知屋旅館止宿香川縣人神道講社員清水粂吉（三七）は七月二十五日頃より講社員募集の目的にて神符數千枚を携へ釜山大邱太田等を經て京城に來り神符を配付し信仰者名簿を差出し多額の金錢の寄付を求め南部署警官に告發され保安法違反として罰金五圓に處せらる

●袋叩きにされる

佐賀縣人當時太平町一丁目六十八番戸石油行商人廣川喜八（[illegible]）本町七丁目内田菓子店雇人大石豊次郎（[illegible]）の二名は二十七日夜太平町一丁目を散歩中鮮人金聖泰（三二）と喧嘩を初め二十餘人の鮮人に取り卷れ袋叩きにされ警官の保護を受けたり

●自轉車泥棒嫌疑

本町一丁目江里口紙商店雇人加藤守夫（十九）は中部校洞李熏公方雇人安基大が光化門郵便局前に置きたる自轉車を盗取したる嫌疑にて南部署に引致され目下取調中

●西村商店の改革

過般來店務整理中なりし當地明治町の株式仲買西村商店にては數日前整理を了へたるより二十七日同業者花客等數十名を松葉亭に招きて改革斷行の經過を報告し了つて酒宴に移り花月の美しいのゝ手踊等ありて盛會なりき

●通行妨害者拘留

宮城縣人當時太平町一丁目居住有馬美紀（二二）は二十七日夜泥醉して米倉町方面を徘徊し通行人に妨害して拘留五日に即決

●メリケン粉を盗む

南大門外岔洞尹亭集（二二）は二十七日午前二時頃大和町二丁目小野菓子店に忍入りメリケン粉一袋を窃取南部署に捕れ目下取調中

●演藝だより

▲壽座　松旭齋天勝一座の奇術にて毎夜大入を占めつゝあり

▲龍山座　奇術界の偉才宮岡天外一座にて二十八日より開演せりと云ふ同人は昨年當地歌舞伎座に於て開演したる事あるは世人の記憶する所の如しされば其技術の如何に輕妙なるかも又世に定評あり入場料一等三十五錢二等二十五錢三等十五錢十二歳以下の小見は十五錢均一にて向ふ五日間午後六時より開演すと云ふ

▲浪花館　二十七日初日を出したる桃中軒雲柳花園等の一行當日の盛況は實に素晴らしきものにて遅れて至りし客の入場を拒絶したるもの少なからずりしと早く入來ても同じ値ですから何うぞ早く〳〵との事なり二十九日の讀み物は赤穂義士傳中南部坂別れのなり

▲歌舞伎座　歌舞伎座のキネオラマは電氣工事及機械取附けに意外の日子を費したる結果開演期非常に後れ漸く去廿六日初日開場せり何しろ初めての觀物の事とて非常の大入にてキネオラマの際の如きは喝采の連續なり觀客の最も感ずるは日出、夕立、夕燒、明月、イルミネーション等らしく餘興の美人電氣踊は從來黒幕を張りつめて只人物丈けの彩色なりしに今度のは舞臺一面に明るく且つ寫眞背景を用ひたる進歩の跡確かなり

平民文庫

▲御用紙京日の仁川民長岩崎氏誹謗に關し仁川發行の朝鮮新聞が奪戰と出掛けた、而して其誹謗の原因はと云へばツマリ京日が自社發行併合紀念號の廣告集めに岩崎民長を利用せんとして斷られたからだ▲サテ小僧の聞くところによると過日岩崎民長のところへ仁川一般の市民への廣告勧誘を頼みに行つたのは誰あらう京日社長吉野太左衛門其人であつて民長が公職上ソンナ馬鹿な事は出來ないと刎付けたるに對し太左公尻を半分マクリ覺ねて居ろの捨臺辭で歸つたのだそうだ▲以上を以て見ると誹謗された民長が惡いか誹謗した京日が惡いか、ココはドウしても不當公明を以て聞ゆる明石警務總長閣下の判斷を乞はねばならぬ▲イヤ判斷はかしちやない、御用紙ともあらうものが、御用を笠に被て恐喝めいた事をする様では人民が堪らぬ▲尤も京日は御用紙の事だからドンナ眞似をしようと勝手だと云ふのなら仕方がない、併し夫では天下の政道が亂れる▲重ねて言ふが本事件が警務總監部の手で早く決定すればよし、左もなくば寺内總督の許へ直訴するぞ（小僧）▲驚入生なる人の京城郵便局小包係の角田は云々の投書は沒（係）▲○○職書○馬課○都君投書は沒（係）▲朝鮮内地の官私立病院を通じて看護婦の不親切なる事は實に痛點に達し居る取り分け明治町本間病院看護婦及附添看婦に至りては實に甚だし入院患者の見舞品菓子及果物贈り來ると本館機患者より看護婦が無遠慮にも食ひ荒し冷用の氷は看護婦の食用にて代金は患者持ち主任醫本間者は患者に對し誠に親切だがナア（蒼入院患者）▲桃山の象龍樓の仲居は惡い奴皆さん用心し玉台（辻小生）▲若山にかて琵琶教授せし筑前浮羽郡出の○好ヶ云ふ耳髪は恐るべき色魔である（若山大凰町高橋久）▲若草町一丁目邊の廣田云々の投書は沒（係）▲南山町のじつね事は一時休んで居たが二十九日から開業すると云ふから知らせする（食道）▲平壤開岸本樣にれ知らせ申上候れ待衆の餞別はかれこれ百圓近く集り近々中に御送附申す筈に御座候就ては物品にて御送り申すべきや例に依て現金の方宜敷候や一寸た知らせ下され度候（不贊生）▲家庭新聞の本社は南山町三丁目七番戸（係）